

研究構想図

教育目標

- 【あかるく】明るくのびのび行動する子ども
- 【かしこく】創造性を生かし、自ら学ぼうとする子ども
- 【なかよく】仲間を大切に、力を合わせる子ども
- 【たくましく】健康な体と強い意志でねばり強くやりぬく子ども

学校経営方針（抜粋）

- ・「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という意欲を大切に、児童一人一人に達成感を味わわせる授業の創造
- ・「学力向上アクションプラン」の策定、および全学級での確実な実施による個別最適な学びの実現

算数科における上一色南小学校の児童の実態

- ・導入や教材の工夫、及びヒントカード等の活用により、「自力解決」に進んで取り組もうとする児童が増えた。「この方法で解いてみよう、やってみよう。」と、自分で学習の進め方を考え、学びを深めていくことができる児童が増えてきた。
- ・学習意欲はあるが、どのように問題に取り組んだらいいのかかわからず、筋道を立てて考えることができない。
- ・既習事項を活用して問題を解く力が不足している。



【育てたい力】

- ◎主体的に学ぶ力
- 基礎基本を習得する力
- 筋道を立てて考える力



- ・個別最適な学びの実現
- ・基礎的、基本的な知識、及び技能の習得
- ・思考力、判断力、表現力等の育成
- ・学んだことを生活や学習に活用する態度の育成

《研究主題》

進んで考え、ともに学ぶ楽しさを実感できる児童の育成

～問題解決への意欲を高める算数科の授業づくり～

目指す児童像

- ・学習意欲にあふれ、思考力や表現力を働かせて新たな問題を解決していこうとする児童
- ・基礎基本をもとに、考えたり関連付けたりすることができる児童
- ・目的意識や見通しをもち、筋道立てて考えることができる児童

研究仮説

- ・自らの課題をもち問題を解く楽しさを味わえば、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、学んだことを主体的に活用できる児童を育てることができるであろう。
- ・数学的な見方・考え方を向上させ、互いの考えのよさを認め合ったり、協力して課題を解決したりすることで、ともに学ぶ楽しさを味わえることができるであろう。

授業の柱・・・3段階の授業過程

《ステップ1》問題の把握・・・問題に興味・関心をもち、課題把握ができる授業

《ステップ2》自力解決・・・問題を解決する見通しをもち、自分の考えをもつことができる授業
(学び合いを含む)

自力解決の過程において、他者とかかわり、他者の考えから気付いたり学んだりすることができる授業

《ステップ3》まとめ・適用問題・・・学んだことを表現したり、活用したりできる授業